

2023 年度 教育課程

專 門 分 野 (老年)

# 老年看護学

## 構築の考え方

老年看護学は、老年期のあらゆる健康レベルにある人とその家族を対象に、加齢現象や健康障害に応じた援助を実践する基礎的能力を養う領域として位置づける。

わが国の人口の高齢化は急速に進んでおり、後期高齢者の割合が増加している。寝たきりや認知症の高齢者が増加傾向にあり、核家族化の進展や介護する家族の高齢化などによる家族の介護機能の変化が起こっており、高齢者介護は今後の課題となっている。

老年期は生命が成熟した後、老化・衰退の道をたどり、死を迎える最終ステージであり、人間的に成熟・統合にむかって発達しながら、各々の人生を完成させるための重要な時期といえる。

高齢者は複数の疾患を持ち、慢性的に経過しやすいなどの特徴から、疾患中心ではなく生活志向で、日常生活の自立や生活の質(QOL)の向上をめざした看護が重要である。しかし核家族化や家族のあり方そのものの変化から、学生は日常生活の中で高齢者と接する機会は限られており、高齢者については漠然としたイメージしか持っていないことが多い。

これらのことから、学生の老年観を養い、高齢者を生活の視点からアセスメントし、QOLの向上をめざす看護と、高齢者の尊厳を守り、その人らしい生を全うし、安らかな死を迎えるための援助について学習していく。

老年期にある対象が、健やかに老いるための多様なニーズに対応するためには、保健医療福祉との連携が必要かつ重要であり、高齢者を取り巻く社会環境としての家族や地域社会との関連、特にソーシャルサポートについて理解し、看護の役割を学ぶ必要がある。

以上のことから、老年看護学の授業科目構造は、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 4単位(90時間)並びに老年看護学実習2単位(90時間)とし、合計単位数は6単位(180時間)とする。

老年看護学概論は、加齢現象を人間の生理的現象としてとらえ、老年期の対象の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、老年看護の機能と役割を理解する。

老年看護学援助論Ⅰは、高齢者を生活者として捉え、生活機能を整える看護と地域で高齢者を支えるシステムを理解する。

老年看護学援助論Ⅱは、老年期にある対象の健康障害の特徴と健康障害の応じた援助の方法を理解する。

老年看護学援助論Ⅲは、高齢社会における認知症の実態を理解するとともに、認知症予防の看護や認知症高齢者の看護を理解する。また、最終ステージである高齢者のエンドオブライフケアを理解する。

老年看護学実習では、対象の加齢現象や健康レベルの特徴を踏まえて、多様な場で生活・療養する対象に対して看護を実践する基礎的能力を習得する。

# 老年看護学

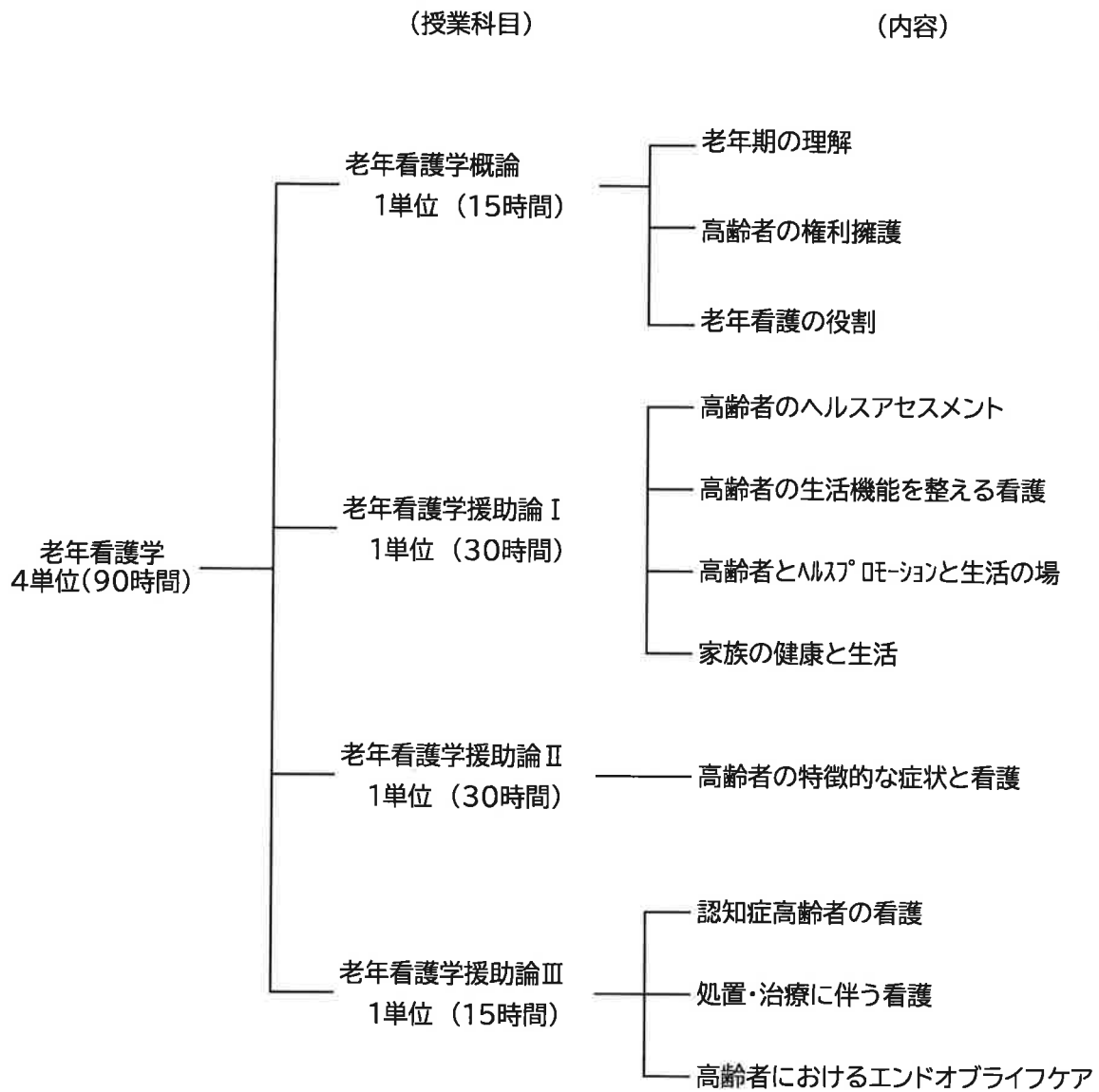
## 目 的

老年期にある対象の特徴を理解し，加齢現象と健康障害に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

## 目 標

- 1 老年期にある対象の特徴と健康特性を理解する。
- 2 加齢に応じた健康の保持・増進と健康障害に応じた援助の方法を理解する。
- 3 老年期にある対象を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

# 老年看護学 科目構造



科目名	老年看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	1年
担当者名	半村 博美 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	加齢現象を人間の生理的現象としてとらえ、老年期の対象の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、老年看護の機能と役割を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～4回	1 老年期の理解 1) 「老いる」ということ (1) 加齢と老化 (2) 加齢に伴う身体的・心理社会的変化 (3) 老いのイメージ (高齢者疑似体験) 2) 老いを生きるということ (1) 高齢者の定義 (2) 発達と成熟：老年期の発達課題 2 高齢者の加齢変化 1) 身体の高齢変化 2) 高齢者のこころ 3) 高齢者のかかわり 4) 高齢者の暮らし 5) 高齢者の生きがい						講義
5回	3 高齢者疑似体験						演習
6回	4 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 (1) 高齢者に対するスティグマ (2) エイジズム (3) 権利擁護 (アドボカシー) 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度 (1) 成年後見制度 (2) 日常生活自立支援事業						講義
7回	5 老年看護の役割 1) 老年看護の特徴 2) 老年看護の役割 3) 老年看護に携わる者の責務						講義
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学 専門 I 老年看護学① 老年看護学概論 (医学書院) 看護のための人間発達学 (医学書院)						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・ 出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨む。・ 演習には積極的な参加姿勢を望む。						

科目名	老年看護学援助論 I						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	新井 知佳 (実務経験のある授業科目：看護師) 金戸 瑞穂 (実務経験のある授業科目：看護師) 小幡 相 (実務経験のある授業科目：看護師) 市役所職員 (実務経験のある保健師)						
ねらい	高齢者を生活者として捉え、生活機能を整える看護と地域で高齢者を支えるシステムを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～3回	1 高齢者のヘルスアセスメント 1) 高齢者のヘルスアセスメント 2) 身体に加齢変化とアセスメント 3) 生活機能のアセスメント ICF 生活機能分類 高齢者総合機能評価 (CGA) 2 ライフヒストリー 1) 高齢者の生活史 2) ライフヒストリーの意義 3) ライフヒストリーの活用 4) ライフヒストリーの展開						講義
4～10回	3 高齢者の生活機能を整える看護 1) 活動 (1)基本動作と環境のアセスメント (2)転倒のアセスメントと看護 (3)廃用症候群のアセスメントと看護 2) 食事・食生活 (1)高齢者における食生活の意義 (2)高齢者の摂食障害の特徴 (3)食生活・栄養状態のアセスメント (4)食生活の支援 3) 排泄 (1)高齢者の排泄ケアの基本 (2)排尿障害のアセスメントと看護 (3)排便障害のアセスメントと看護						
	4) 清潔 (1)高齢者における清潔の意義 (2)高齢者の皮膚の特徴と健康問題 乾燥とかゆみ：皮膚掻痒症 (3)清潔のアセスメントと看護 5) 生活リズム (1)高齢者と生活リズム (2)生活リズムのアセスメントと生活リズムを整える看護 6) コミュニケーション (1)高齢者のコミュニケーション上の特徴 (2)高齢者とのコミュニケーションの原則 (3)コミュニケーション能力のアセスメント (4)高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法						

	<p>7) セクシュアリティ  (1)高齢者のセクシュアリティの特徴  (2)高齢者の性に関する問題  (3)セクシュアリティのアセスメントと看護</p> <p>8) 社会参加  (1)高齢化の現状と目指す社会の方向性  (2)地域における高齢者の社会参加</p>	講義
11～12回	<p>4 高齢者とヘルスプロモーション  1) 老年期のヘルスプロモーション  2) 介護予防とヘルスプロモーション  3) 「住み慣れた場所で最期まで」を実現する地域包括ケア</p> <p>5 保健医療福祉施設および居住施設における看護  1) 介護保険施設  2) 地域密着型サービス  3) 住まい</p> <p>6 多職種連携における看護活動</p>	
13～15回 (45分)	<p>7 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族  1) 看護家族の健康と生活  (1)家族の形態と機能の変化  (2)家族による介護</p> <p>2) 家族への援助  (1)家族のアセスメントの視点  (2)介護家族への援助</p>	
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨む。 ・演習には積極的な参加姿勢を望む。	

科目名	老年看護学援助論Ⅱ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	白水 千春 (実務経験のある授業科目：看護師) 津田 裕美 (実務経験のある授業科目：看護師) 吉岡 恵里子 (実務経験のある授業科目：看護師) 大竹 和歌子 (実務経験のある授業科目：看護師) 大和田 茜 (実務経験のある授業科目：看護師) 大西 恵子 (実務経験のある授業科目：看護師) 飯ヶ谷 美恵 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	老年期にある対象の健康障害の特徴と健康障害の応じた援助の方法を理解する。						
回数	内 容					授業形態	
1・2回	1 老年症候群の特徴 1) 老年症候群とは 2) 老年症候群の分類 2 腰背痛 1) 腰背通の成因と分類 2) 腰背痛の治療と看護 3 転倒・骨折 1) 転倒のハイリスク選定と予防 2) 骨折の予防 3) 施設内転倒防止の看護 4 フレイル 1) フレイルとは 2) フレイルの基準 3) フレイルの原因 4) フレイルの進行とサルコペニア 5) フレイルの治療と予防					講義	
3回	5 感覚器障害 (視覚・聴覚) 1) 感覚器障害の成因と分類 2) 感覚器障害の治療と看護 (1) 白内障                   (2) 難聴						
4・5回	6 嚥下障害 1) 嚥下障害の成因と分類 2) 嚥下障害の評価と検査 3) 嚥下障害の治療と看護 (1) 誤嚥・窒息の予防       (2) 口腔機能改善ケア						
6・7回	7 熱中症 1) 熱中症の成因と分類 2) 熱中症の治療と看護 8 脱水症 1) 脱水症の成因と分類 2) 脱水症の治療と看護 9 やせ・低栄養 1) やせの成因 2) やせの治療と看護					講義	



8回	10 排尿障害（尿失禁） 1) 排尿障害の成因と分類 2) 排尿障害の治療と看護 11 便秘 1) 便秘ケア	
9回	12 皮膚障害 1) 褥瘡 (1) 診断と評価 (2) 予防・治療 2) 皮膚掻痒症 (1) 皮膚掻痒症の成因 (2) 予防とケア 3) 疥癬 (1) 症候と診断 (2) 治療と感染予防対策	
10・11回 (45分)	13 睡眠障害 1) 睡眠障害の成因と分類 2) 睡眠の治療と看護 14 うつ 1) 病態と生理学的特徴 2) うつの症状と生活への影響 3) うつの治療とケア 15 せん妄 1) せん妄の鑑別診断 2) せん妄の治療と看護	
12・13回	16 心不全 1) 病態と生理学的特徴 2) 心不全の症状と生活への影響 3) 看護の実際 (1)心不全症状緩和ケア (2)慢性心不全急性増悪予防ケア 17 慢性閉塞性肺疾患（COPD） 1) 病態と生理学的特徴 2) 慢性閉塞性肺疾患の症状と生活への影響 3) 看護の実際	
14回	18 パーキンソン病 1) 病態と生理学的特徴 2) 症状と生活への影響 3) 看護の実際	
15回  (45分)	19 感染症 1) 病態と生理学的特徴 2) 主な症状と心身及び社会生活への影響 3) インフルエンザの治療と援助 4) 肺炎の治療と援助 5) 感染性胃腸炎の治療と援助 6) 罹患予防と感染拡大の防止策	試験
評価方法	筆記試験で評価する。	
必須資料	系統看護学 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院）	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の 留意事項	・科目内容が細分化しており、複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、休まずに出席できるよう体調を整えること。 ・予習・復習して臨むこと。 ・科目が細分化され、複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、欠席しないように授業に臨むこと。	

科目名	老年看護学援助論Ⅲ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	大和田 茜 (実務経験のある授業科目：看護師) 大西 恵子 (実務経験のある授業科目：看護師) 松下 久美子 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	高齢社会における認知症の実態を理解するとともに、認知症予防の看護や認知症高齢者の看護を理解する。また、高齢者のエンドオブライフケアを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～4回	1 認知症と社会制度 1) 認知症高齢者数の推移 2) 認知症をとりまく制度の変遷 2 認知症の予防 1) 認知症の病態と症状 2) 認知症の診断に必要な検査と生活機能評価 3) 認知症の治療と予防 (1)薬物療法 (2)非薬物療法 ①24時間リハビリテーション ②バーリゲーション療法 ③回想法 3 認知症高齢者の看護 1) 認知症看護の原則 2) 認知症高齢者とのコミュニケーション方法 3) 認知症高齢者の環境整備 4) 急性期医療における認知症高齢者の看護 4 家族介護者への支援						講義
5回	5 高齢者の検査時の看護 6 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象 (薬物有害作用) 3) 老年症候群と薬物有害事象 4) 薬物療法における看護職の責務						
6・7回	7 高齢者におけるエンドオブライフケア 1) 「生ききる」ことを支えるケア (1)日本人の死生観 (2)死の準備状況 2) 意思決定への支援 (1)高齢者の尊厳を守るための支援 (2)アドバンスケアプランニング 3) 末期段階に求められる援助						
(45分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統的看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。						